

教育目標			新しい多様化の時代を生きる 心身ともにたくましい生徒の育成						
重点目標			①自ら考え、学び、決定する授業・学校づくりに努める。②わかった、できた、楽しい、もっと学びたいと実感できる授業を推進する。③子どもたちの「主体性、思考力、自己調整力、コミュニケーション力」の向上を図る。④自己肯定感の醸成に努める。⑤不登校生徒数の減少に向けた未然防止を図る。⑥東中学校の教育を積極的に発信する。						
主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価	
学校教育	「確かな学力」の育成	①基礎的・基本的事項の定着 ②ねらいと振り返りを重視したわかりやすい授業の実施 ③家庭学習の定着	①各教科で観点別評価についての説明を行い、適切に評価することで学習意欲を高める。 ②今日のねらいを明示し、内容を工夫する。振り返りを実施し、授業内容をより理解させる。 ③定期的に課題を出し、家庭学習を徹底させる。	①「学習の成果を適切に評価されている」の回答を85%以上に上げる。 ②「授業はわかりやすく楽しい」の回答を85%以上に上げる。 ③「家庭学習のための宿題が適切に出されている」の回答を生徒、保護者ともに80%以上に上げる。	B	①「学習の成果について適切に評価してくれる」について、生徒92%、保護者は88%の回答であり、目標は達成できた。 ②「授業はわかりやすく楽しい」について、88%の回答であり、目標は達成できなかった。 ③「宿題が適切に出されている」について、生徒が90%、保護者が71%で、生徒は目標が達成できたが、保護者は達成できなかった。	①「学習の成果を適切に評価してくれる」については、シラバスを活用して生徒・保護者に、各教科の評価方法についてより具体的に周知徹底していく。 ②引き続き、タブレット等を有効活用するなど、一人ひとりに応じた授業改善に努めていく。 ③「宿題」について、個に応じた適切な内容・量を検討していく。また、宿題については、保護者にも伝わる方法を検討していく。	「ねらい」や「ふり返り」を意識した授業等を行ったことで、わかりやすく楽しい授業になったと高く評価する。今後も重点目標②の「わかった、できた、楽しい、もっと学びたい」授業を推進していただきたい。 ・家庭学習においては、習慣化されるような取組を検討していたが、改革案にあるような個に応じた適切な内容も考えようと思った。そして誰一人取り残さない取組を充実していたいただきたい。	
	新しい時代に対応した教育の推進	①情報活用能力の育成 ②言語活動の充実 ③デジタル化の促進	①言語活動の充実のための情報活用能力の育成 ②兵庫型システムの有効活用 ③ICT機器の効果的な活用	①各教科においてスピーチ等、生徒の発言の場を設定したり、グループワークやタブレットを活用した授業を実施する。 ②同室複数授業等を実施する。 ③タブレットや電子黒板、実物投影機等を有効的に活用する授業を実施する。	①グループワークの実施やタブレットを活用して、生徒の考えを引き出す工夫に努める。 ②同室複数授業等を実施し、生徒にきめ細やかに関わり、学力の定着を図る。 ③全教員が有効的にICT機器を活用し、「先生は教え方にくいという工夫している」、「授業はわかりやすく楽しい」の回答を85%にする。	A	①「ペアワーク、グループワークなどを取り入れ、言語活動の充実に努めている」の回答は87%で、昨年度より1ポイント上昇した。また、「先生は教え方にいろいろ工夫している」は94%であった。 ②同室複数授業を数学や英語等で実施し、生徒にきめ細やかな支援等を行い、学力の定着に取り組んだ。 ③「授業はわかりやすく楽しい」は88%で目標を達成できた。また、「授業内容でわかりにくいことについて先生に質問しやすい」の割合が73%で前年度より9ポイントも上昇することができた。	①効果的な「協働的な学び」についての研修を重ねていく。 ②状況に応じて、少数数習熟度別学習にも取り組んでいく。 ③テスト前の学習会や質問等をタブレットで受け付けるなどを通して、「授業内容でわからないことについて先生に質問しやすい」の割合を80%になるようにしていく。また、効果的なグループワークの実施やタブレットの活用等を通して、生徒の考えをより引き出すよう工夫し、「授業はわかりやすく楽しい」の割合をさらに向上させていく。	・アンケート結果の数値が昨年度よりも大幅に上昇したことには大いに評価できている。先生方のご尽力に感謝する。 ・タブレットの教師の活用レベルを一定のところまで引き上げる必要があるという意見があった。研究会や日々のOJTを通して、活用能力の向上に努めていただきたい。 ・タブレットを有効に活用することによって、授業がわかりやすくなっている。ただ、生徒たちが受け身でなく、主体的な活動となるよう配慮いただきたい。また、具体的な手立てについては、各教科で検討、工夫していただきたい。
	「豊かな心」の育成	①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	①豊かな心を育てる道徳教育の充実 ②いじめアンケートの積極的な活用 ③不登校解消に向けた関係機関との連携 ④体験活動を通した自己肯定感の向上	①担任だけでなく、全教員の道徳教育の実践力向上を図り、5つの心を意識した教材を扱う場面を設定する。 ②いじめアンケート調査等を有効活用し、早期発見、早期解決を行う。 ③不登校生徒を出さないための伊丹市共通実践事項を実践する。別室を活用して、不登校生徒を減らす。 ④宿泊行事、トライやる・ウィーク、校外学習等の充実を図る。	①「自分を大切にすることを教えてもらった」という回答を生徒、保護者ともに85%以上に上げる。また、保護者、地域に向けて、授業公開を行う。 ②いじめの重大事態につながる事実を未然に防ぐ。 ③不登校生徒数が前年比90%以下を目指す。 ④各行事を通して、生徒一人ひとりが主体的に役割を果たすことができるように努める。	B	①「自分を大切にすることを教えてもらった」という回答は生徒90%と目標を大きく上回ることができた。保護者は84.1%であったが、昨年度よりも1.4ポイント向上することができた。 ②いじめアンケート調査や教育相談等を活用し、積極的にいじめの早期発見に努めた。 ③不登校生徒数が昨年度と同等ではあるが、昨年度まで登校できなかった生徒の中に別室を利用しながら登校できるようになった生徒が多数いる。 ④生徒・保護者ともに学校行事への参加に対して、高い数値が出ている。	①小中の連携を通して、道徳教育を推進する。 ②すべての教育活動を通して、いじめを生まない土壌づくりを推進していく。 ③別室教室での課題を検証し、さらに有効活用できるようにしていく。また、誰一人取り残さない教育を推進するための様々な手法を模索し、学びの場の提供を検討していく。	・「東中の生徒たちは頑張っている」という声をあらゆるところで聞くことが増えてきた。授業参観等で生徒たちの様子を見ても、まさに感同身受である。また、別室の内泊生運用等、不登校生徒への対応が進んでおり、多くの生徒たちの頑張りを認めている。そして、その環境を作ってくれた先生方の頑張りを大いに評価したい。 ・不登校対策において、保護者、地域、小学校との連携をより進めたり、「やまびこ」の取組を参考に、教員や臨床心理士を志望する学生ボランティアを登録したりするなどを検討願いたい。 ・不登校の未然防止を図るために、生徒の自己肯定感を向上させる様々な教育活動の取組についてもご検討願いたい。
	「健やかな体」の育成	①児童生徒の体力向上の促進 ②発達段階に応じた健全な食育の推進	①体力テストに基づいた体力向上策の実施（教科と学校行事の連携） ②生涯スポーツとしての部活動の取り組み ③給食指導における食育の推進	①体力テスト（５月実施）の結果から、全年齢が全国平均を下回った体力項目を向上させるために体育の授業を中心に、補強運動を継続的に取り組む。 ⇒３学期に測り直しを実施。 ②授業や部活動からスポーツを「する・見る・支える・知る」という考え方、視点を広める。 ③保健委員会や栄養教諭を中心に健康管理の啓発と食習慣の意識を高め、自己の健康管理を行う。	①再計測後の持久走の記録が全国平均に近づく。 ②スポーツのよさ、楽しさ、健康の保持増進に努められるようになる。 ③保健委員会・栄養教諭を中心に給食に関する整備やマナー等、食育の意識を高める。また、保健委員会と連携することで、生徒自身で健康管理を意識をした行動を取れるようになる。	B	①１月に再計測を行った。現段階では、全国平均並みである。 ②質問項目がなかったため、生徒の考えや実態を把握することができなかった。 ③栄養教諭による栄養指導が昨年度よりも積極的に行われており、連携が取れていた。一方、食事や給食マナーの指導については、教員90%であったが、生徒72%、保護者75%と結果にずれがあった。	①保健体育の授業を通して、スポーツの習慣及び運動能力の向上、運動習慣を身につけさせていく。 ②生徒アンケートを実施し、スポーツに対する意識を把握する。また、保健体育の授業を通して、スポーツに対する知識や有用性等の涵養に努める。 ③アンケート項目の「マナー」についてはなく、「知識」や「必要性」を把握できる質問項目に置き換える。	・確かに学力の育成は、健やかな体があってこそであり、体をつけることに加えて、食育教育も引き続き進めていただきたい。 ・スポーツに関する質問項目を検討いただき、次年度は課題を数値化して、生徒の状況を的確に把握し、健やかな身体力の育成に役立てていただきたい。 ・食事や給食マナーの指導については、悲観的な数値ではないと捉えている。ただ、教員と生徒、保護者の結果にずれがあったため、継続的な働きかけをお願いしたい。
	教育相談・支援体制の充実	①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	①各学年と発達段階におけるキャリア教育の推進 ②ＳＣ、ＳＳＷとの連携強化 ③教育相談を活用した生徒間の良好な関係構築	①キャリアパスポートを活用した教育相談や進路指導を行う。 ②生徒指導会議・教育相談会議で、連携を深める。 ③ＱＵやアンケートなどを定期的に行い、生徒理解に努め、組織的に手立てを考える。	①学期に１回、キャリアパスポートを活用する。 ②週に１回以上、会議等で密に相談を図る。 ③ＱＵやアンケートの結果を学年会議等で共有し、教育相談時に活用する。	B	①キャリアパスポートは記入したが、有効活用には至らなかった。 ②今年度が教育支援ルーム（別室）の運営を開始しており、支援員やＳＣ、ＳＳＷとの連携が増えた。 ③生徒・保護者・教職員のアンケート結果から、ほとんどの項目で昨年度よりも向上が見られた。	①キャリアパスポートの活用の工夫の仕方を全職員で共有する。 ②会議の時はもちろん、それ以外の時間も密に相談を図るようにする。 ③配慮を要する生徒においては、担任だけでなく、ＱＵ等の結果を活用して、学校全体で組織的に対応する。	・キャリアパスポートを有効活用するためには、どのように使うかを検討願いたい。また、キャリアパスポートを活用して、小学校や家庭との連携も考えていただきたい。 ・ＳＣやＳＳＷの配置頻度等は、市教委の管轄ではあるが、生徒たちの声を聞ける態勢づくりをさらに推進していただきたい。
特別支援教育の推進	①特別支援教育の充実	①校内特別支援教育推進委員会の充実 ②個別の指導計画の作成 ③特別支援教育支援員との連携	①支援を必要とする生徒に対し、情報を共有し、適切な手立てを協議する。 ②個別の指導計画の作成期日を設ける。学年ロッカーに保管し、閲覧できるようにする。 ③校内特別支援委員会が支援員から情報を得て、それを確実に学年に伝える。支援員と担任や教科担任の連携を深める。	①毎週１回開催する。協議した内容は学年会等で必ず周知を図る。 ②生徒の「先生は、一人ひとりの状況に応じたきめ細やかな指導をしている」と及び、教師の「個別の指導計画に基づき、生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導を行っている」のポイントを前年度よりも上げる。 ③教師アンケート「校内委員会の内容に基づき、コーディネーター、支援員の連携が図れている」の回答を80%以上に上げる。	A	①原則、毎週１回実施できた。協議した内容は学年会等で周知を図った。 ②生徒の「先生は、一人ひとりの状況に応じたきめ細やかな指導をしている」、前年度よりも3ポイント向上したと教師の「個別の指導計画に基づき、生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導をしている」でも1ポイント向上した。 ③教師の「校内委員会の内容に基づき、コーディネーター、支援員の連携が図れている」の回答が90%で、大きく目標を達成することができた。	①引き続き、校内支援委員会を週１回開催していただく。協議した内容も学年会等で周知を図っていく。 ②生徒の「先生は、一人ひとりの状況に応じたきめ細やかな指導をしている」と教師の「個別の指導計画に基づき、生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導をしている」の向上をさらに図っていく。 ③教師の「校内委員会の内容に基づき、コーディネーター、支援員の連携が図られている」の向上をさらに図っていく。	・調査結果が、大きく目標を上回っており、大いに評価できる。引き続き、特別支援教育コーディネーターや支援員等との連携を充実していただきたい。また、より一層、小中の連携を強化する等、更なる向上を図っていただきたい。	
教職員の資質向上	①研修等の充実	①校内研修を通じた教職員の資質向上	①授業力の向上をはじめとする教職員の資質向上を目指した校内研修会を定期的実施する。	①全ての教員が年１回以上の公開授業を実施する。 ②夏季研修会の充実を図る。 ③月１回研修会（スキルアップ研修会を含む）を実施する。	A	①全ての教員による公開授業は終了した。課題は、空き時間の関係で参加者を増やしたり、期間を指定して参加しやすいようにしたりする等に取り組み中だった。 ②今年度のスキルアップ研修会は定期的な実施できており、研修時間内開催のため、昨年度より参加者が増えた。	①公開授業の参加者を増やすために各教科で調整する。また、実施クラスを増やしたり、期間を指定して参加しやすいようにしたりする等に取り組み中だった。 ②今年度のスキルアップ研修会は定期的な実施できており、研修時間内開催のため、昨年度より参加者が増えた。	・研修会を勤務時間内に実施する等の工夫をされたことで研修会の充実が目立った。また、せっかくなら何にも話しかえらぬ環境が今年度の「笑顔のある職員室」に繋がったようである。 ・教員の雰囲気や向き合い方は、生徒に良い影響を与えている。引き続き、取組を続けていただきたい。 ・若手教員のサポートが肝要である。「スキル（やり方）」のベースである「あり方」が大切。学校教育目標の「たくましさ」についても、具体的な「目指す生徒像」を教職員で共有し、どう読み込ませ、深めていくかを熟慮し、共通の価値観として実践していただきたい。	
教育環境の整備・充実	学校を支える組織体制の整備	①学校運営協議会との連携 ②東中ファミリーサポーターズ・PTAとの連携強化	①拡大大学校運営協議会（TM2）に参加する。 ②学校だより、HP、Googleクラスルーム等を用いて情報を発信する。 ③「サタスタ」「図書活動」「スマイル活動」等への協力を生徒・PTA・地域に呼びかける。また、授業の見回り活動等の協力を依頼する。 ④東中地域活性隊による地域貢献を行う。	①拡大運営協議会に参加する。 ②保護者の「学校は学校だよりやHP、Googleクラスルーム等を使って積極的に情報発信に努めている」の回答を85%以上に上げる。 ③「サタスタ」「図書活動」「スマイル活動」等への協力を生徒・PTA・地域に呼びかける。また、保護者の「学校はサタスタや図書活動などの取組を通して、地域や保護者との連携のもと積極的な教育活動を行っている」の回答を90%にする。 ④地域行事を周知し、東中地域活性隊による地域貢献を推進する。	B	①生徒会執行部の参加等により、今後の学校生活に活かしていく。 ②今年度は80%にとどまった。保護者には、積極的に教育活動を発信していかねばいけない。 ③「サタスタ」の呼びかけをHPや紙媒体等、様々な形で行った。 ④コロナ後、積極的に参加する生徒が増えたが、全校生への周知方法を検討していく。また、担任、部活動顧問による声掛けを行った。	①生徒会による参画をより積極的に行う。 ②HPやGoogleクラスルームだけでなく、まなびポケット等を通して、より情報発信に努める。 ③学年集会時や学級、部活動とさらに連携を図っていく。また、東中ファミリーサポーターについて、教師に周知していく。 ④今年度、学校運営協議会の協力を得て、地域主導で実施できた。次年度もさらに協力・連携を深めていく。	・TM2を受皿にすることによって、地域活性隊がスムーズに地域移行できた。引き続き、連携方法等について協議が必要。順次課題があればご対応願いたい。 ・TM2、東中校区各学校運営協議会、PTA、学校と意思疎通や情報共有するシステムを構築し、各組織の関わり方や役割を整理することができているのではないかと。持続可能なありかたをコミュニケーションをとりながら、ともに進めていきたい。	
	安全・安心な教育環境の充実	①防災意識の向上 ②自転車安全教室の実施 ③毎月の安全点検の実施 ④定時退勤日の完全実施	①防災意識の向上 ②自転車安全教室の実施 ③毎月の安全点検の実施 ④定時退勤日の完全実施	①避難訓練を通して、安全教育を行う。 ②自転車安全教室を通して、交通意識の向上を図る。 ③安全点検を行い、不備があれば、迅速に改善する。 ④週1日定時退勤日を設定し、退勤を呼びかける。	A	①2回実施することができた。訓練とわかっていながらも本番さながらに素早く行動することができた。ただ、避難経路の確認が必要である。 ②実施することができた。 ③月1回実施したので小さな不備にも気づき、迅速に修繕して生活することができた。 ④会議の日は、45分授業や5校時までにしたことで、終了時刻を早めることができた。	①避難後のグラウンドの学年の並びを緑丘小学校側から3、2、1年の順に変更し、移動するときに交錯をしないようにする。 ②次年度も実施していく。 ③次年度も早期発見に努め、迅速に対応していく。 ④教育課程を調整し、専門委員会の日も5校時までとする。	・学校運営協議会としては、学校の現状把握に努め、働き方改革がより一層推進する方法を考えていきたい。 ・生徒たちを守るために、最近社会問題になっている特殊詐欺（闇バイト）等の課題にも、学校運営協議会、PTAと連携して、ともに対応していきたい。	

学校関係者評価総括

この一年であらゆる数値が大幅にプラスに転じ、子どもたちが楽しく生き生きと学校生活を送っていること、保護者の学校理解も深まっていることが読み取れる。このことは授業参観等で我々も実感しているところであり、これは校長先生のリーダーシップのもと、先生方が努力を重ね、研究を重ね、そして行動していただいた結果であり、心から感謝申し上げます。この流れを引き続き、次年度にも繋げていただきたい。ただ、やることが多岐にわたっており、働き方改革に留意しながら重点項目をしっかりと定めることが肝要である。全てを先生方だけでこなそうとせず、PTA・地域に振ることのできるものは遠慮なく声をあげていただき、授業力向上等、本丸にかけた時間を創出していただくことを願う。子どもファーストのもと、誰一人取り残さない教育、個に応じた適切な対応を目指すのが、ここには丁寧さと時間が必要である。これを作るためには様々な工夫やチーム力が欠かせない。そのための指針が学校教育目標であり、重点目標である。事あるごとに校長先生はこれを発信していただき、学校教育目標を教職員全体で共有、浸透させ、その実践を皆で楽しんでいただきたい。加えて家庭・地域にも発信いただき、チーム東中で目標に向かって進んでいきたい。そして我々はそのための応援を惜しまないことを誓う。

次年度に向けた重点的な改善点

教職員が丸となって、子どもたちにとって、東中学校が『心の居場所』となる『魅力ある学校づくり』に努めてまいります。予測困難な時代にあって、「これからの時代はこれを学べ」と一方的に押しつけるのではなく、子どもたちの「考える力」、「主体性」、「自己調整力」等を大切に「子ども主導」の学びに努めてまいります。また、人として必要不可欠な「人間力」、「コミュニケーション力」、「思いやりの心」等もバランス良く育成してまいります。さらに、学校運営協議会と連携を密に取り、「子どもの最善の利益」を視野に入れた教育を推進してまいります。そして、東中学校が子どもたちにとって「毎日、通いたい学校」、保護者にとって「毎日、通わせたい学校」、教職員にとって「働きがいがあり、自分自身の能力を存分に発揮できる勤めたい学校」、さらに、地域にとって「誇れる学校」になるよう努めてまいります。

自己評価の基準 A:目標を上回った B:目標どおりに達成できた C:目標をやや下回った D:目標を大きく下回った